

JST×SDGsトーク

「よりよい未来社会に向けた科学技術」

日時 2021年12月10日(金) 13:00~14:15 主催 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

場所 東京ビッグサイト会議棟・607会議室 / オンライン(ハイブリット開催)

参加方法

- ① 現地参加: web申し込み必要(先着40名)。申し込みURL https://form.jst.go.jp/enquetes/ecopro2021_20211210seminar_sdgs
- ② オンライン参加: 申し込み不要。ZoomウェビナーID: 982 6411 5704 パスコード: 265354
Zoomウェビナーリンク <https://zoom.us/j/98264115704?pwd=Q3YyMUR3U1ZvRk5XZ3hTS2ZhZU5vdz09>

科学技術イノベーションは、よりよい未来社会の実現に貢献します。

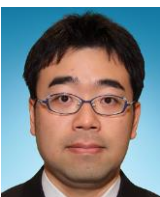
研究者が携わる社会課題解決に向けた研究開発から、SDGsなどの社会課題の解決に向けた科学技術の貢献について考えます。

◆ 当日プログラム

- ◇ 開会挨拶 白木澤 佳子 科学技術振興機構(JST) 理事
- ◇ 話題提供 ~ よりよい未来社会に向けた研究開発 ~
4名の研究者による社会課題解決に向けた取り組み紹介
- ◇ パネルディスカッション
パネリスト: 話題提供者
- ◇ 閉会



話題提供者(パネリスト) (発表順)



田邊 匡生 教授(芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科)

「プラスチック資源循環サイクルにおける科学技術の社会実装」

来春に「プラスチック資源循環促進法」が施行され、すべてのプラスチック製品がリサイクルの対象となります。芝浦工大、東北大、静岡大が協働するJST-STARTプロジェクトでは、電波と光の性質をあわせもつテラヘルツ波によるプラスチック素材の分別装置を開発しています。廃プラスチックの問題の解決は、持続可能な開発目標(SDGs)の達成と循環経済の構築に最も重要な課題のひとつであり、本プロジェクトはこれらの取り組みの実現に大きく貢献します。



田所 諭 教授(東北大学大学院情報科学研究科)

「レスキューロボットの研究開発」

災害時の人命救助のためのロボットを研究開発しています。とても危険で人間が行けない場所での救助、人間の能力を超える作業の実施、救助の迅速化・効率化、がレスキューロボットによる支援の目的です。瓦礫内を探索するヘビ型ロボット「能動スコープカメラ」、空飛ぶ消防ホースロボット「ドラゴン・ファイヤーファイター」、救助犬をロボット技術で高度化する「サイバー救助犬」、EUとの共同で研究開発している瓦礫内探索小型ロボット「SMURF」などを紹介します。



村下 公一 教授(弘前大学健康未来イノベーションセンター副センター長/COI副拠点長(戦略統括))

「オープンイノベーションを基盤としたデータ駆動型新well-being社会システム構築戦略」

弘前大学は政府COIの拠点として、約80の企業/大学等の強力な産学官民連携チームで、「寿命革命」を旗印に健康長寿社会の実現に取り組んできました。拠点の最大の特長である超多項目ビッグデータを基盤とした疾患発症予測AIモデル等の研究成果、健康教育に重点をおいた新行動変容モデル「QOL健診」を機軸とする世界のすべての人々の健康格差最小化に向けた取組など、SDGsへの貢献を目指した戦略についてご紹介します。



岡田 志麻 准教授(立命館大学理工学部ロボティクス学科)

「多様性を自然に認め合う社会実現へ向けて“こころ”を繋ぐ技術の紹介」

人の幸福度と対人関係の質には強い関係があることが知られており、コミュニケーションによって築かれる対人関係は、非常に重要なものです。近年、SNSやWeb会議のような多様なコミュニケーションにより、時間や場所の制約を受けずに、世界中の様々な人とつながることができるようになった一方で負の側面も指摘されています。本発表では、質の良い対人関係を築くための新しいコミュニケーション技術として、相手のこころを知る、空気を読む技術を紹介し、その応用としてこころを繋ぐ技術について紹介します。



科学技術振興機構



科学技術振興機構(JST)は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。